

# ISHINOMAKI

Growth record

コンソーシアム ハグクミ  
2016-2020年度 事業報告書

2016年度  
|  
2020年度



石巻の成長記録。

# ISHINOMAKI

## Growth record

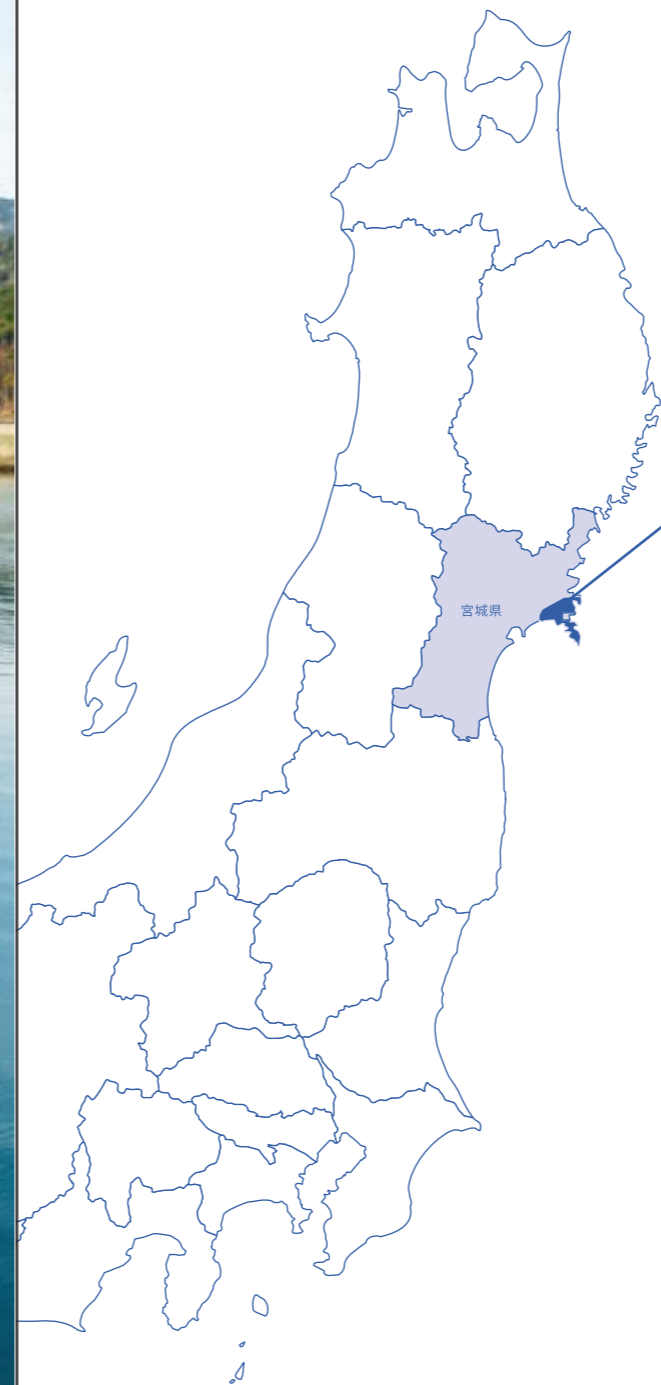
コンソーシアム ハグクミ  
2016-2020年度 事業報告書

### About

本書は石巻市と連携し移住促進や創業支援を行う  
コンソーシアムハグクミの事業報告書です。  
地方創成の斜め上を目指し、  
新たなチャレンジがたくさん生まれる街を目指し、  
育んできた石巻の5年間の成長記録です。

### コンソーシアム ハグクミとは？

ISHINOMAKI2.0、イトナブ、巻組、石巻観光協会の4社による共同事業体。  
石巻市と共に石巻への「移住」や「ローカルベンチャー」の推進を図る為、地域活躍支援事業、地域交流・定着支援事業、空き家活用事業を展開する他、移住者の住まいや仕事の相談窓口となる、移住コンシェルジュを設置し、多岐に渡る事業を展開しています。  
2016年より国内10以上の自治体が参加する「ローカルベンチャー推進協議会」の石巻事務局を務めています。



ISHINOMAKI  
石巻市

人口 140,704人 (2021年1月末日現在)  
世帯数 61,860世帯 (2021年1月末日現在)  
面積 554.55 km<sup>2</sup>



日和山  
HIYORI Mountain



石ノ森萬画館  
Ishinomaki Mangattan Museum



サン・ファン館  
MIYAGI SANT JUAN BAUTISITA MUSEUM



旧観慶丸商店  
FORMER KANKEIMARU SHOTEN

### Contents

はじめに / コンソーシアムハグクミとは？	
石巻まちのコンシェルジュ	02
石巻 2025 会議	06
とりあえずやってみよう大学	10
石巻版松下村塾 (野性のススメ)	14
石巻オモシロ不動産大作戦	18
情報発信・掲載事例	22
ローカルベンチャー協議会	24
数字でみるローカルベンチャー	27

# 石巻まちの concierge コンシェルジュ



## 事業 Introduction 紹介

石巻市の移住相談窓口として設置された移住コンシェルジュ。移住検討者の住まいや仕事、生活に関する相談、不安などをサポート。また、首都圏のイベントに参加し石巻への移住 PR 活動の他、地域との交流や移住者向けのイベント等を企画。その他、ローカルベンチャー促進の足掛かりとなる人材育成活動を行うコンソーシアム ハグクミの全体の窓口としての役割も持つ。2020年よりYoutubeチャンネルを開設し、クリエイティブに石巻の魅力を内外に発信している。

2016年9月から2021年3月までの移住コンシェルジュ窓口を通じた相談者数・移住者数

相談者数 / 195名 移住者数 / 46名

(移住相談・提携相談を含む)

### Concierge Profile



阿部 拓郎  
Takuro Abe

子供の頃は分からなかった石巻の魅力が大人になってから少しずつ理解できるようになってきました。たくさんの人に、自分が育った街を知ってほしいと思いコンシェルジュとなりました。



矢口龍太  
Ryuta Yaguchi

大学で東京へ出てから15年、かつて過ごした石巻の面白さが忘れられず、2017年よりリターン。この街の魅力を、今度は自分が伝えてゆく側になりたいです。



## コンシェルジュの活動紹介



### 移住フェアで石巻の魅力をアピール

都内などで開催される移住フェアで石巻の面白さを発信。時には先輩移住者を連れて、移住の相談や移住後の仕事の相談をしています。フェアがきっかけとなり石巻に足を運んでくれる人もこれまで多数いました。

### オリジナルのお試し移住ツアーを開催

まちのコンシェルジュに相談すると、石巻をまるごと体験できるお試し移住ツアーをご提案します。IT や一次産業から六次産業まで、気になる仕事をおためしできるプログラム、働きながら滞在するワーケーションまで幅広く対応します。



### 企業研修からスタディツアーまで

石巻のまちの魅力をまるごと紹介するまちのコンシェルジュでは、企業研修から学生企画のスタディツアーまで幅広くコーディネート。石巻の魅力をまるごと体験できるプログラムをご用意します。ここからリピーターとなり再来訪してくれる人も多数。

### 移住後のケアも行います

移住後も定住支援をいたします。移住者同士や地元の人たちとの交流会も開催。仕事の悩みや生活上の悩みまで幅広く相談を受けます。住まいの紹介や、ビジネス向けの物件も一緒に探すことも可能。気軽にご相談ください。



## 移住者 Note

### 移住者 01

#### 東京での飲食店勤めから石巻での農業暮らしへ

都内でキッチンカーでのランチ販売業に携わるなか、2017年に石巻で開催された総合芸術祭「Reborn-Art Festival」がきっかけで、石巻市への移住を決意。初めて石巻に来た際に、土地の景色に感動し、「ここであれば、農のある暮らしと家族の時間を作れる」と思い、移住を決断。2019年6月に東京から夫婦で石巻市北上町へ移住し、一般社団法人イシノマキ・ファームで活動を開始。現在はファームでの農業のほか、企画コーディネーターも担当し、同法人が運営するカフェ店「I-HOP CAFE」の店員としても働く。

#### Profile

1985年生まれ、東京都西東京市出身。2017年に石巻市への移住を決意。2019年6月に東京から夫婦で移住し、石巻市北上町の一般社団法人イシノマキ・ファームで農業に従事するほか、ファームの企画コーディネーターとしても働く。

#### 池田 新平さん

### 移住者 02

#### 編集者がUターンし、石巻で出版社を立ち上げ

生まれ育った石巻を高校卒業と同時に上京。大学を卒業後、都内で有名大手出版社に勤務の後、編集者として活躍。だが次第にメジャーの仕事に疑問を抱くようになり、自分が良いと思える本を作りたいとフリーランスへ転向。その後、久しぶりに訪れた震災後の石巻の賑わいに触れ、街の魅力に惹かれる。震災で傷ついた故郷を想う気持ちと、自らの夢を叶えるため、2019年に石巻で出版社「口笛書店」を設立。この街から発行される「奇跡の一冊」を作りたいと奔走する。

#### Profile

1976年宮城県石巻市生まれ。大学在学中より出版社で書籍編集を始める。小説を中心とした書籍を担当した後、文芸カルチャー誌を編集長として創刊。退社後も本の編集、ライティングに携わり、19年6月石巻市に出版社、株式会社口笛書店を設立。

#### 日野 淳さん

### 移住者 03

#### Uターンし、石巻で女優活動

高校を卒業後、生まれ育った石巻市を離れ上京。上京前の2010年には、石巻市民ミュージカル「ツキを呼ぶ魔法の言葉」で初舞台を踏んでいた。2011年の震災後には、石巻市での俳優活動も行うようになり、2017年にUターン。同世代の演劇人たちとともに、石巻市を拠点に活動する、エンターテインメント団体「TieTone」を設立。老若男女問わず演劇、ミュージカルに気軽に触れられる環境を作るため演者のみに限らず、振り付け、演出などにも取り組んでいる。

#### Profile

1994年生まれ。石巻市出身。TieTone所属。高校卒業後に上京し、専門学校にて本格的に演技、歌、ダンスを学ぶ。卒業後2年間は東京にて舞台を中心に活動。2017年の年度末に石巻にUターン。帰郷後も俳優活動を継続している。

#### 大橋 奈央さん

## 活躍する移住者たち



name

奥堀亜紀子 さん

2017年8月に、大学の特別研究員として石巻に滞在し始め、哲学研究の活動を行う中で、石巻の街なかにある多くのコミュニティと出会う。研究機関での任期を終えると、2020年4月から正式に石巻への移住を決意。活動の一環で関わっていた介護センターで働きながら、塾講師としても働く。また研究機関に所属しない在野研究者として、哲学の研究も続ける。2020年からは、石巻の間が運営する「みち草工房」の一角を拠点とし、LIFEWORERSという名で詩人の活動も再開。「石巻では、いつでも飯食べに来ると聞かれる家族のような関係が互いに築き合えた。そんな価値観が今も残っている石巻が好きです」と語る。

塾講師として関わっている一坪書店文庫で打ち合わせ中の奥堀さん



Creative Hub でコンテンポラリーダンスを行うよしださん



name

よしだめぐみ さん

東京都出身で、小学生の頃から児童劇団に所属。空間演出家やパフォーマンスアーティストとして活動を行う中で、演劇以外の世界を知らないことが不安になり、大学2年のときに中退。その後、石巻市の総合芸術祭「Reborn-Art Festival」に、アルバイト運営スタッフとして関わった事で、演劇活動の再開を決意。しかし2020年にコロナの影響もあり、東京での活動自粛が余儀なくされる。そのような中で、家賃なしでクリエイターに住まいを提供する石巻市の「Creative Hub」(運営:合同会社・巻組)にジョインし、移住。現在は同世代の演劇人たちとともに、エンターテインメント団体「TieTone」を設立し、仙台、女川など、宮城県の地域のイベントや、アーティストのマネジメントなどにも活動の幅を広げている。



(写真提供/巻組、写真撮影/Furusato Hiromi)

アートドラッグセンターで個展の準備をする有馬さん



name

有馬かおる さん

2017年に石巻で開催された総合芸術祭「Reborn-Art festival」に出展し、滞在制作を行ったことをきっかけとし、夫婦で移住。「自分が住み始めたこの場所が、アートの街になっていったら楽しい」という思いがあり、移住を決意した。滞在期間中から、住まい探しやコミュニティとの接続などを通して、移住コンシェルジュと関わる。地域に滞在し、地元作家とギャラリースペースを作って来た経験を活かし、「石巻のキワマリ荘」や「アートドラッグセンター」の運営に関わり、若手の育成にも力を注ぐ。「歌人がいて、出版社の人がいて、アーティストがいて、起業家がいる。あるジャンルに特化した人たちが、なぜか石巻の街なかエリアには異常にいる。それが居心地の良さや面白さ」と語る。



# 石巻2025会議

## 事業 Introduction 紹介

石巻の多様な主体が入り混じりながら現実的な地域の未来を共有し、その上でよりよい未来を実現するためのアクションを探る会議。団塊の世代が75歳を超え、医療制度が崩壊する懸念が高まると推測される「2025年問題」。

石巻も例外ではなく、総人口は134,260人、年少人口13,546人(10%)、生産年齢人口74028人(55.10%)、老年人口46686人(34.70%)に推移すると予測されている。働き手は10%減り、高齢層が増える未来がすぐそこまで近づいている。人口が減れば内需は当然のごとく落ち込み、地域のありとあらゆる分野が衰退していく可能性がある。また国が定めた復興期間は2011年から2021年までの10年間とされており、期間終了後は現在のような様々な優遇措置は徐々に狭められる傾向になると推測される。その上で復興から自立し、持続的な地域の運営に楔を打てるかどうかは復興期間である現在も含め、この数年でどう動いていくかが鍵になるはずである。

石巻2025会議では毎回様々なテーマを設け「復興から成長へ」持続的な地域を実現するべく、各分野のキーパーソンが集集し議論を通じて地域の未来を話し合った。

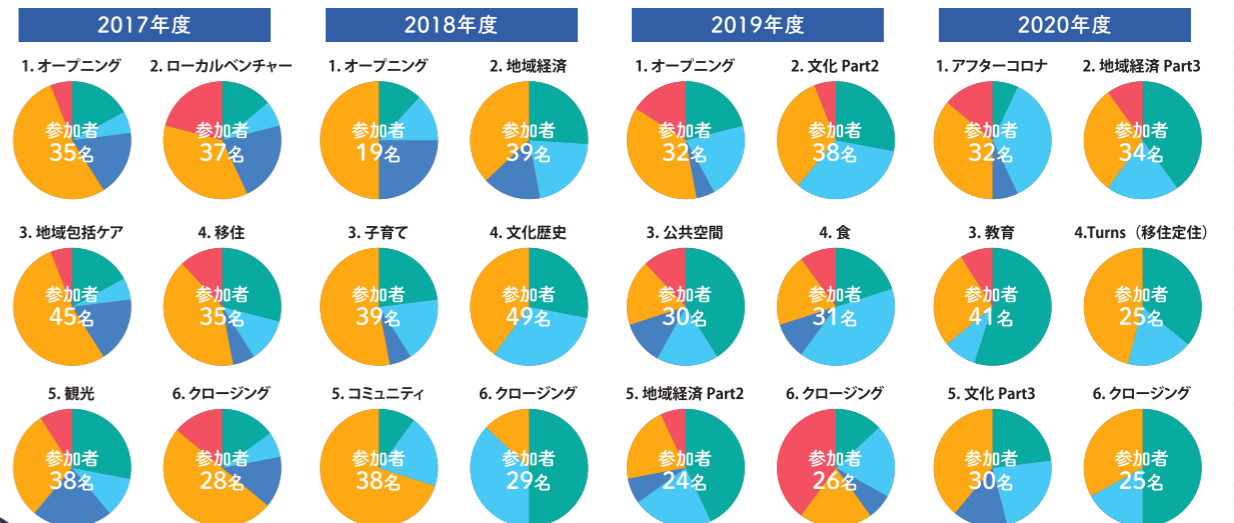


## { 石巻2025会議開催データ }

年度	ゲスト	※敬称略
<b>2017年度</b>	阪井 聡志：石巻市復興担当審議監 松村 豪太：一般社団法人 ISHINOMAKI2.0 三上 和仁：合同会社デザインキ 高橋 由佳：認定 NPO 法人 Switch 藤部 隆寿：一般社団法人 ISHINOMAKI2.0 河谷 智大：株式会社街づくりまんぼう 矢口 龍太：一般社団法人 ISHINOMAKI2.0 渡邊 享子：合同会社巻組 松本 裕也：FishermanJAPAN 林 貴俊：Tree Tree Ishinomaki 山口 智大：NPO 法人石巻復興支援ネットワーク 谷川 海明：法音寺 / 石巻青年会議所 千葉 隆博：株式会社石巻工房 阿部 明夫：石巻産業創造株式会社 向井 太郎：石巻信用金庫 長 純一：石巻市包括ケアセンター 荒木 裕美：NPO 法人ベビースマイル石巻 横山 翼：斎藤病院 小尾 勝吉：愛さんさん宅食 株式会社 橋本 大吾：一般社団法人りぶらす 大塚 恵介：一般社団法人おしかリンク 佐々木 亮介：食堂パレス 比佐野 皓司：信和物産株式会社 小野 力：石巻市民 石森 洋史：石巻日日新聞 原田 優香：公益財団法人共生地域創造財団 森 優真：石巻産業創造株式会社 須永 浩一：ヤフー株式会社 阿部 勝浩：一般社団法人石巻観光協会 高橋 智之：株式会社街づくりまんぼう 藤間 千尋：公益社団法人みらいサポート石巻 松村 豪太：一般社団法人 Reborn-Art Festival 山内 千代文：一般社団法人石巻観光推進機構 杉浦 達也：一般社団法人サードステージ 亀山 貴一：一般社団法人はまのね 近江 弘一：Cobaltore 女川 / 石巻日日新聞 平塚 隆一郎：山徳平塚水産株式会社 山田 康康：株式会社ノースジャパントアーズ 佐藤 友美：石巻元商店 高澤 祐二：七十七銀行 林 伸和：株式会社林食品 田中 雅子：NPO 法人こども感ばにー 吉川 恭平：NPO 法人子どもにやさしいまちづくり 菊田 真香：NPO 法人石巻アーカイブ 毛利 社幸：有限会社毛利屋 阿部 拓郎：石巻劇場芸術協会 / 空想科学文化研究所 矢口 龍太：いしのまき演劇祭 都甲 マリ子：演出家 / パフォーマー 嶋崎 佑：Yukiaisai/Videographer 齋藤 麻理奈：図書館司書 近江 嗣：塔短歌会 / 短歌部カブカブ 高橋 一夫：池月サポートセンター 佐藤 尚美：一般社団法人ウィアーアーン北上 西村 真由美：フリーランス / 上釜を愛する会 谷 祐輔：石巻社会福祉協議会 阿部 拓郎：一般社団法人 ISHINOMAKI2.0 落合 孝行：フリーランス / 山下地区協働のまちづくり協議会 横山 翼：一般社団法人りぶらす (当時)	松下 嘉広：フリーランス 佐野 亜希：IRORI 石巻カフェスタッフ 西條 允敏：石巻市文化協会 三國 裕子：女優 / 演出家 武内 宏之：公益財団法人石巻市芸術文化振興財団 齊藤 誠太郎：一般社団法人 ISHINOMAKI2.0 菅根 史江：山下地区協働のまちづくり協議会 阿部 勝浩：一般社団法人石巻観光協会 米澤 耕也：株式会社元気いしのまき 勝 邦義：一般社団法人 ISHINOMAKI2.0 勝又 秀樹：Onepark 谷 碧：NPO 法人まちの寄り合い所・うめばたけ 三浦 悠：株式会社街づくりまんぼう 加納 実久：一般社団法人イシノマキ・ファーム 阿部 司：割烹 滝川 布施 太一：株式会社布施商店 須根 邦雄：石巻魚市場 森 優真：石巻産業創造株式会社 杉山 満之：有限会社杉山商店 高橋 由佳：一般社団法人イシノマキ・ファーム 高橋 寿：株式会社草新舎 伊藤 浩光：株式会社海遊 木村 美保子：株式会社ゼン・インターナショナル 鈴木 康也：ハコブネ。 / 株式会社 DJ.0 布施 太一：株式会社布施商店 後藤 峻：株式会社ソフワダイレクト 谷 碧：NPO 法人まちの寄り合い所・うめばたけ 横山 翼：一般社団法人 HitoReha 松本 裕也：Fisherman JAPAN / ヤフー株式会社 山田 康康：株式会社ノースジャパントアーズ 齋藤 祐司：株式会社齋藤商店 津田 祐樹：株式会社石巻津田水産 武山 夢奨：ふるさと料理 つる屋 浅田 大和：有限会社ミノリフーズ 島山 周平：あかま里山農園 齊藤 誠太郎：一般社団法人 ISHINOMAKI2.0 平塚 冬真：石巻高校 学生 / 100 円朝市企画者 石川 樹：石巻高校 学生 / 100 円朝市企画者 池田 綾花：宮城大学 学生 / 石巻在住 高橋 倫平：日本体育大学 学生 / NPO 法人カタリ委託スタッフ / 山田 はるひ：フリーター 石森 洋史：株式会社石巻日日新聞社 小野 真希：荒屋デザイン / 旭仙沼市 U ターン 宮城 了大：Active Life Lab 小寺 賢子：みち草工房 日野 淳：口笛書店 津田 成美：合同会社巻組 鹿野 風斗：美術家 大森 萌子：cafe grain 樹谷 和子：NPO 法人こども感ばにー 阿部 和枝：石巻市文化協会 金田政和：石巻市文化協会 LIBOO：シンガポールライター 近江 嗣：歌人 有馬 かおる：美術家 志村 春海：Reborn-Art Festival 津田 大介：ジャーナリスト / メディア・アクティビスト
<b>2018年度</b>	2018年10月19日(金)：オープニング 2018年11月16日(土)：地域経済 2018年12月21日(土)：子育て 2019年01月18日(土)：文化歴史 2019年02月15日(土)：コミュニティ 2018年03月02日(土)：クロージング	
<b>2019年度</b>	2019年06月07日(金)：オープニング 2019年07月12日(金)：文化 Part2 2019年10月11日(金)：公共空間 2019年11月18日(月)：食 2020年01月17日(金)：地域経済 Part2 2020年02月21日(金)：クロージング	
<b>2020年度</b>	2020年10月09日(金)：アフターコロナ 2020年11月13日(金)：地域経済 Part3 2020年12月04日(金)：教育 2021年01月08日(金)：Turns(移住・定住) 2021年02月12日(金)：文化 Part3 2021年03月05日(金)：ポスト 311	

## 参加者の傾向

■ 生まれも育ちも石巻 ■ 石巻出身 U ターン ■ 宮城県内出身 I ターン  
 ■ 宮城県外出身 I ターン ■ その他



# 石巻 2025 会議

## Ishinomaki 2025 Meeting Representative Discussions

### 石巻 2025 会議 代表的なディスカッション



#### テーマ：ローカルベンチャー

2017年10月21日(土)

石巻ローカルベンチャーの代表事例として石巻工場の千葉隆博氏が発表。以前は地元石巻の寿司屋で働いていたが、震災により「直したくても直せない」現状を目の当たりにした。そこで「復興ではなく復旧」という観点で市民がDIYスキルを取得すれば復旧は早くなるのではと考え「市民工房」を東京の仲間と共に起こした。仮設住宅のためにつくった家具が評判を呼び、販売を開始。価格感の問題もあり売り先は石巻以外が主で、現在は日本のみならず海外での販売やワークショップを行っている事を会場に向けて説明。会場を巻き込んだオープンディスカッション1つ目の話題は「石巻の価格感」。地元を対象としたビジネスは商材によっては限界があるという指摘に対し、「石巻で売れなければ世界に売り、売れるのであれば後から石巻で売るという視点が重要」といった意見が出された。2つ目は「連携」。当日は創業支援団体、金融機関、青年会議所など幅広い組織が集まった事もあり、それぞれの活動や強みを共有した「連携の仕組みづくり」を議論した。



#### テーマ：移住

2018年01月20日(土)

石巻における移住の現状について移住コンシェルジュの矢口龍太氏と雁部隆寿氏が発表。「平成28年度に石巻市の事業として移住コンシェルジュがスタートし、これまで相談91名/移住14名の方と関わってきた。中でも関係人口から移住する方が多く、Uターンも4名いる」と説明。そして、現在は「地域発信イベントなどで石巻の魅力をPRし、お試し現状共有ツアー『ウミネコキャラバン』も実施。他にも空き家、空き店舗探しとマッチング、起業家の伴走支援も行っている」と続けた。最後に「移住はあくまで『目的』ではなく『結果』として多様な人々の窓口となり、魅力的で選ばれる街にしたいと考えている」と話した。観覧者からも積極的に意見が飛び出したオープンディスカッション。前半は「Uターン」に関する話題を中心に展開。コンシェルジュの2人を中心に「UターンよりもUターンが増えている」「40歳を前に戻る人が増えている」「検討材料として仕事と給与水準が重要」といった指摘が出た。後半は「Uターン」の話題。「意欲的なUターンをする人は現実的な部分よりも『面白さ』を重視する傾向にある」との意見には、会場から同意の声が多く出た。

#### テーマ：子育て

2018年01月20日(土)

前半は子ども支援の共同団体「石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会」が石巻市に提言を行った「石巻の子どもの居場所づくりに関する提案」の内容を全体に共有。子どもには放課後自由に遊ぶ場が必要だが、石巻市は14万人規模の都市にも関わらず放課後に利用できる施設は1館しかなく、石巻の子どもの居場所は不足している現状を確認。後半は参加者に「石巻の子育てがどうなったら良いか」を議題にアイデアを出していくワークショップを行なった。「子ども好きなおばあちゃんに、遊び場へもっと来てもらう」「コレクティブハウス」「移住者に対する子育て情報の充実」「噴水や芝生がある公園」「子どもを気軽に連れていけるファミレス以外のレストラン」「神社を活用した遊び場」「ボール遊びができる公園」「お母さんの自由な時間の確保」「大人が入れない公園」「世代を超えて交わる場」といった突飛なものから具体的な案まで様々なアイデアが生まれた。



#### テーマ：文化歴史

2019年01月18日(土)

前半は郷土史家の菊田貞吾氏を中心に石巻市の「これまでの文化」についてのレクチャー。明治から昭和にかけて芝居や映画の流行が石巻でも起こり、花柳界などの娯楽から演芸も栄えた。その後昭和22年に初めての公民館ができ、近年では震災前までは市民ホール、文化センターがあった。他にもレゲエカルチャーといった隠れた文化、長浜でのフェスやサンファンでのオペラといった取り組みへと話は続く。そして現在は石ノ森萬画館が根付きつつあり、リボンアートという新しい潮流も生まれていく中で複合文化施設が建設中という全体の流れを確認。後半は「これからの文化」について議論をした。「震災後に入ってきた移住者が生み出すカルチャー」「閉鎖的で何もないから余地がある」「一定数の一般の方をどう巻き込むか」「上の世代と若者世代をつなぐ必要性」「石巻のメインカルチャーがわからない問題」「メインになるには愛が必要だ」「カルチャー同士のせめぎあい=愛のみつどもえ」「支える人を増やしてピラミッドのてっぺんを伸ばす」といったキーワードを元に、多角的な議論が展開された。

#### テーマ：公共空間

2019年10月11日(金)

テーマリーダーを街づくりまなぼうの苅谷智大氏が担当。会場は今回の中心議題でもある新しい公共空間「堤防」を間近に見ることができる石巻市かわまち交流センター。普段から公共空間に縁がある登壇者を中心に議論を展開した。苅谷氏の公共空間を定義づけるプレゼンの後に「みんなが好きな石巻の場所」を話題にトーク開始。昔の橋通り、駅舎が2つあった時代の駅前、貞山堀、ショッパーズ、橋通りCOMMONなどそれぞれの想いと共に好きな場所を挙げた。後半は「堤防をどう活用したら面白い場所になるのか」を議題にディスカッションを進行。元気いちばマネージャーの米澤氏は「食のエンターテインメント空間を作りたい」と語り、Oneparkの勝又氏は「スケートボード大会など自由に使いたい、リスクよりもプレイヤーが楽しくなる方法を考えるのが一番ではないか」と提案。他にも日常で人が集まるための施策や、歩くと楽しい仕掛け、渡し舟や斜面を活かした流しそうめんをやりたいという声も出た。管理面では毛利氏が「企画を相談する窓口があると良いのでは」と提案し、賛同を集めた。今後の堤防利用に期待感を持たせる内容で締めくくられた。



#### テーマ：食

2019年11月18日(月)

テーマリーダーをイシノマキ・ファームの加納実久氏が担当し、登壇者も料理人に水産加工会社、精肉店とバラエティ豊かな食のスペシャリストが集結。さらに石巻魚市場相談役の須能氏も議論に参加し、石巻の食を多方面から考えていった。まずは加納氏が石巻の食の現状をプレゼン。一次産業従事者が多く、水産業が発達して農産品も豊富、地酒もあり食に強い地域と説明。そこから「石巻の食の魅力」を切り口に議論をスタートするも、早々に松村氏が「食は豊かだと思うが、その割に料亭が少なくブランドも根付いていないのではないかと問題提起。それに対し須能氏は「仕掛けの仕方が重要」と語り、料理人の阿部氏は「磨けば光る原石をどう磨いていかを見直すこと、地元の食材が中央ではなく地元で手に入れば魅力になる」と話した。後半は加納氏が前半を振り返り、石巻の食の価値を上げるためには何が必要か議論を開始。「真鱈の胃袋の活用、牡蠣殻の再利用、地元食材が買える朝市の開催、行列を生み出すお店」といった具体的なアイデアから、「演出、はったり、仕掛け」といった見せ方を考えるキーワードも頻出し、多方面から食の磨き方を考える時間となった。





【とりあえずやってみよう大学開催データ】

2017

- 「とりあえずやってみよう大学#1 すきまがあるところでのびのびと活動する学」  
ゲスト：並河進氏(電通デジタル)×古山隆幸氏(イトナブ)
- 「とりあえずやってみよう大学#2 ありあわせのもので事業をはじめる学」  
ゲスト：青木純氏(まめくらし)×亀山貴一氏(はまのね)
- 「とりあえずやってみよう大学#3 仕事を遊びにしよう学」  
ゲスト：飯田昭雄氏(電通アイソバー)×今野英樹氏(今野梱包)
- 「とりあえずやってみよう大学#4 かなえられなかった夢を役立てる学」  
ゲスト：齋藤精一氏(ライゾマティクス)×千葉隆博氏(石巻工房)



2018

- 「とりあえずやってみよう大学#1 とりあえずやってみよう大学オープンカレッジ」  
ゲスト：並河進氏(電通デジタル)×亀山貴一氏(はまのね)
- 「とりあえずやってみよう大学#2 やったことないのにはじめてはじめてみる学」  
ゲスト：並河進氏(電通デジタル)×吉澤武彦氏(日本カーシェアリング協会)
- 「とりあえずやってみよう大学#3 自分がつくったものから学ぶ学」  
ゲスト：長谷川琢也氏(フィッシャーマン・ジャパン)×高橋由佳氏(イシノマキ・ファーム)
- 「とりあえずやってみよう大学#4 とりあえずやってみよう大学特別講義～新しいこと、始めたいあなたに。その一歩を踏み出すコツをお伝えします～」  
ゲスト：古山隆幸氏(イトナブ)×飯田昭雄氏(電通アイソバー)×亀山貴一氏(はまのね)×並河進氏(電通デジタル)
- 「とりあえずやってみよう大学#5 意外な組み合わせを楽しむ学」  
ゲスト：小柴美保氏(MIDORI.SO)×豊島崇美氏(石巻ウェディング)
- 「とりあえずやってみよう大学#6 自分のB面を活かす学」  
ゲスト：飯田昭雄氏(電通アイソバー)×林貴俊氏(TreeTrelshinomaki)



2019

- 「とりあえずやってみよう大学#1 オープニングトーク&パネルディスカッションスーパーマルチ社員が創造する「とりあえず」の仕掛け方」  
ゲスト：倉成英俊氏(電通Bチーム)×飯田昭雄氏(Gensler)×長谷川琢也氏(フィッシャーマン・ジャパン)×渡邊享子氏(巻組)
- 「とりあえずやってみよう大学#2 表現することで繋がる始まる学」  
ゲスト：飯田昭雄氏(Gensler)×桑田ひとり氏(ラッパー)
- 「とりあえずやってみよう大学#3 分野にとらわれず可能性を追求する学」  
ゲスト：中村真広氏(ツクルバ)×渡邊享子氏(巻組)
- 「とりあえずやってみよう大学#4 様々な肩書きから世界をつくる学」  
ゲスト：澤田智洋氏(世界ゆるスポーツ協会/コピーライター)×亀山貴一氏(はまのね)
- 「とりあえずやってみよう大学#5 一人でできないことはみんなで達成する学」  
ゲスト：米良はるか氏(READYFOR)×油井元太郎氏(MORIUMIUS)



2020

- 「とりあえずやってみよう大学 アフターコロナの生き方を考える「3.11から始まるニューノーマル」とりあえずやってみよう大学特別編」  
ゲスト：飯田昭雄氏(Gensler)×並河進氏(電通デジタル)×千葉隆博氏(石巻工房)×古山隆幸氏(イトナブ)×松村豪太氏(ISHINOMAKI2.0)×渡邊享子氏(巻組)
- 「とりあえずやってみよう大学 とりあえずやってみよう大学開講直前スペシャル」  
ゲスト：飯田昭雄氏(Gensler)×並河進氏(電通)×松村豪太氏(ISHINOMAKI2.0)×渡邊享子氏(巻組)
- 「とりあえずやってみよう大学#1 第1回ニューノーマルな居場所」  
ゲスト：亀山貴一氏(はまのね)×濱松誠氏(ONE JAPAN)
- 「とりあえずやってみよう大学#2 第2回ニューノーマルな食」  
ゲスト：阿部勝太氏(フィッシャーマン・ジャパン)×魚谷浩氏(魚谷屋)×岩佐十良氏(自遊人)
- 「とりあえずやってみよう大学#3 第3回ニューノーマルなエンタメ」  
ゲスト：矢口龍汰氏([R])×根田政志氏(ウィルテンソン)×広屋祐規氏・鈴木健太氏(劇団ノーマーズ)
- 「とりあえずやってみよう大学#4 第4回ニューノーマルな共創」  
ゲスト：古山隆幸氏(イトナブ)×関治之氏(Code for Japan)×並河進氏(電通)
- 「とりあえずやってみよう大学#5 第5回ニューノーマルな出会い」  
ゲスト：松村豪太氏(ISHINOMAKI2.0)×田中宏和氏(電通Bチーム)×飯田昭雄氏(Gensler)



事業 Introduction 紹介

石巻の起業家の人生について掘り下げながら、生き方について考える市民大学。東京の起業家と石巻の起業家のクロストークや取り組み紹介を行う約半年間のプログラム。全5回の講義と石巻でのフィールドワークを実施し、石巻への移住や移住後の起業、または多拠点居住を行う場所の選択肢として、石巻との関係性を作る。参加者は10名～15名ほどで、首都圏在住で移住・起業を検討する方や大手企業社員、地域おこし協力隊に興味がある方など。

2017年度に都内で4回の講義と石巻でのフィールドワーク。2018年度に都内で6回の講義と石巻でのフィールドワーク。2019年度に5回の講義と石巻でのフィールドワーク。2020年度には、コロナ対策としてオンライン講義を7回実施。のべ100名程度の関係人口を作り、地域おこし協力隊員として石巻市へ移住する方や、自身の事業の拠点の一つとして石巻市を選ぶ方も現れた。



建学の志

2011年の東日本大震災の後、宮城県石巻市では復興の過程で、次々と、かつてない新しい活動を始めようとする人たちが現れました。多くのものを失った街だからこそ、過去の価値基準にしばられず、思いのままに「とりあえずやってみよう」という機運が生まれたのです。「とりあえずやってみよう大学」は、この「とりあえずやってみよう」精神を、建学の志とする市民大学です。石巻のユニークな起業家たちが講師となっており、企業内起業を目指す方々やスタートアップ企業の方々、次の世代を担う大学生の方々に、生きた知見や手法を伝えていきます。いま日本に最も必要とされているのは、立ち止まらずに「とりあえずやってみよう」一人。本大学は、そんな勇気と行動力と遊び心ある人を輩出することを目指します。

学長：松村豪太(ISHINOMAKI2.0) とりあえずやってみよう大学



### 2018年「自分のB面を活かす学」

2018年度の講座のラストに開催された石巻市でのフィールドワーク。石巻駅前参加者が集まり、一泊二日の旅程の中で、各講義で講師を務めた方々の拠点を訪問。最終課題として、フィールドワークを通して、自分が「とりあえずやってみよう」と決意したことを発表するというテーマが与えられた。



### 2018年「自分がつくったものから学ぶ学」

2018年度の3回目の講義「自分がつくったものから学ぶ学」で講師を務めた高橋由佳氏が代表を務める一般社団法人イシノマキ・ファームへ。石巻市北上町にてソーシャルファームを理念に掲げ、築100年以上の古民家を活用し、短期の体験滞在やファームステイを行っている拠点「Village AOYA」を訪問。



### 2019年「表現することで繋がる始まる学」

2019年度に麴町のLIFULL HUBにて開催された講義、#2「表現することで繋がる始まる学」の様相。ゲストに、2011年より石巻市で立ち上がったISHINOMAKI2.0の設立メンバーでもある飯田昭雄氏(Gensler)と、石巻市でラッパーとしてアーティスト活動を行う楽団ひとり氏を招き開催された。



### 2019年「様々な肩書きから世界をつくる学」

2019年度に永田町 Grid にて開催された講義、#4「様々な肩書きから世界をつくる学」の様子。ゲストに澤田智洋氏（世界ゆるスポーツ協会）と、石巻市で故郷の蛤浜を再生する活動に取り組む亀山貴一氏（はまのね）を招いて行われた。

参加をきっかけに  
移住!



### たけい ゆうすけ 武井 友佑 さん

東京都調布市出身。高校1年生の時に、震災について学ぶ団体に関わった事がきっかけで初めて石巻を訪問。「卒業したら石巻で働きたいと思っていた時、いしのまき演劇祭で繋がっていたISHINOMAKI2.0の矢口さんの紹介で、とりあえずやってみよう大学に参加しました。講師からの「外の人だからできることがある」という言葉が忘れられません」と語る。2019年、高校を卒業後に石巻市地域おこし協力隊として就任。公益社団法人3.11みらいサポートで震災伝承の業務に関わる。





塾長、メンターコメント

塾長



一般社団法人はまのね  
亀山貴一氏

松下村塾とは志を持っている人たちのためのものです。今回の参加者もそれぞれが内側に持った熱い気持ちと地域のためにという強い志があったので、その部分をもっと掘り下げるためにやってきました。自分も震災後に起業しました。自分自身が教えられることは少ないですが、失敗談はたくさん共有できます。いままでチャレンジしてきた人と、これからチャレンジする人が一緒になって考えられる場にもなればとも思っています。このつながりを大切にこれからも一緒になって考えていけたらと思います。僕らも行き詰まることもあるので、お互いに相談しあいながら前向きに取り組んで行ければと思います。

メンター



合同会社Amahoro  
薮島一匡氏

魅力的な経営者の方だったり震災後に立ち上がった起業家が、今後支えてもらえるようなコミュニティができるといいと思いながらやってきました。小さいながらも先輩起業家を巻き込み対話をしながらやって来られたと思っています。事業計画から入って行くと、どうしても事業そのものが小さいものになってしまうと、ありがちな事業になってしまうことが多いです。しかし、思いを大切にしていって周りが支えてくれたり、地域の事業者が支えてくれたりします。そういった所がローカルでの事業継続という面では大切だと思います。今後も石巻版松下村塾が、仲間づくりなど、皆で支えていけるようなコミュニティになればと思っています。

4年間のテーマとゲスト

2017年度

- 平成29年11月11日(土) 第1回「ブランディングの心得」  
【ゲスト】遠藤和紀氏(DSIGN NAGI)
- 平成29年12月18日(月) 第2回「事業を成長させる資金繰りと事業計画の書き方」  
【ゲスト】木村拓朗氏(七十七銀行石巻支店 支店長代理)
- 平成30年1月8(月)~9日 第3回(合宿①)  
クリエイターを集める場づくりとエリアブランディング+事業ブラッシュアップ  
【ゲスト】寺井元一氏(まちづくりエディティブ)
- 平成30年2月17日(土)~18日(日) 第4回(合宿②)「ブランディングの心得(2)」  
【ゲスト】遠藤和紀氏(DSIGN NAGI)
- 平成30年3月31日(土) 最終報告会  
【発表者】浅野基氏(NICE PICNIC DAY)/誰もが店を始められるシェアキッチン「オミセシェアー」  
黒澤ひとみ氏(畳屋うにぼうず)/たたみ縁のセレクトショップ「縁(えん)のまち石巻」に!  
佐藤将人氏(学習塾アトムズ)/子どもにもっと絵本をよんでもらいたい!「脳力えほん」  
吉田菊恵氏/シーグラスをつかったプロダクトで海と人をつなぐ「SUNと巻」  
【審査員】亀山絋氏(石巻市長)、後藤宗徳氏(一般社団法人石巻観光協会 会長)、宮城治男氏(特定非営利活動法人ETIC. 代表理事)  
【ゲスト】林貴俊氏(Tree Tree Ishinomaki)

2019年度

- 令和元年7月7日(日) オープニング  
【ゲスト】亀山貴一氏
- 令和元年9月8日(日) 第1回「イントロダクション」  
【ゲスト】亀山貴一氏、薮島一匡氏
- 令和元年10月5日(土) 第2回「仕事」「生業」「生きがい」  
【ゲスト】犬塚恵介氏(一般社団法人おしかリンク)、亀山貴一氏、薮島一匡氏
- 令和元年11月30日(土) 第3回「仕事」「生業」「生きがい」  
【ゲスト】長谷川琢也氏(フィッシャーマンジャパン)、亀山貴一氏、薮島一匡氏
- 令和2年1月18日(土) 第4回「メンタリング」  
【ゲスト】亀山貴一氏、薮島一匡氏
- 令和2年2月22日(土) 第5回「事業報告会に向けた事業プラン発表」  
【ゲスト】亀山貴一氏、薮島一匡氏
- 令和2年3月7日(土) 最終報告会  
→コロナウイルス感染予防対策のため中止

2018年度

- 平成30年7月7日(土) オープニングトークセッション  
【ゲスト】横山淑恵氏(レニ・リロンデール/つばめ食堂)、山内幸治氏(NPO法人ETIC.理事)、亀山貴一氏
- 平成30年9月1日(土) 開校式・合同相談会  
【ゲスト】亀山貴一氏、薮島一匡氏
- 平成30年10月16日(火) 第1回「インサイドアウトについて」  
【ゲスト】亀山貴一氏、薮島一匡氏、犬塚恵介氏(一般社団法人おしかリンク)
- 平成30年11月13日(火) 第2回「右腕人材同士の懇親会をかねた合同相談会」  
【ゲスト】鈴木崇也氏(株式会社DIO)、田中鉄太郎氏(FUNADE)、亀山貴一氏、薮島一匡氏
- 平成30年11月17日(土) フィールドワーク「進捗共有と研修会、フィールドワーク」  
【ゲスト】亀山貴一氏、薮島一匡氏
- 平成30年12月11日(火) 石巻版松下村塾第3回「インサイドアウトについて」  
【ゲスト】千葉隆博氏(株式会社 石巻工房)
- 平成31年2月16日(土)~2月17日(日) 第4回(合宿)「メンタリング」  
【ゲスト】船木成記氏(長野県参事、尼崎市顧問、高知大学客員教授、博報堂)
- 平成31年3月31日(土) 最終報告会  
【発表者】早坂真由美氏/「タイ古式マッサージ」 平野亜紀氏/「コミュニティナース」  
加藤奨人氏/「チャレンジする人たちが集まるカフェ」  
小川奈津美氏/「Mimiのおまんじゅう屋さん」  
【審査員】亀山絋氏(石巻市長)、後藤宗徳氏(石巻観光協会)

2020年度(野性のススメに改称)

- 令和2年6月5日(金)アフターコロナ時代のサバイバル術「野性のススメ塾」  
公開ディスカッション(オンライン)  
【パネリスト】亀山貴一氏、長谷川琢也氏(一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン事務局長)  
【モデレーター】船木成記氏(一般社団法人つながりのデザイン)
- 令和2年7月7日(金) プログラム説明会「野性に従う、いしょく・じゅう」  
【モデレーター】船木成記氏(一般社団法人つながりのデザイン)  
【ゲスト】亀山貴一氏、船木成記氏(一般社団法人つながりのデザイン)
- 令和2年8月8日(土) 第1回  
【ゲスト】亀山貴一氏、船木成記氏(一般社団法人つながりのデザイン)
- 令和2年9月19日(土) 第2回  
【ゲスト】木野瀬千晶氏(うさど)、亀山貴一氏、船木成記氏(一般社団法人つながりのデザイン)
- 令和2年10月17日(土) 第3回  
【ゲスト】小寺賀子氏(みち草工房)、亀山貴一氏、船木成記氏(一般社団法人つながりのデザイン)
- 令和2年11月14日(土) 第4回メンタリング  
【ゲスト】亀山貴一氏、船木成記氏(一般社団法人つながりのデザイン)
- 令和2年12月5日(土) 第5回メンタリング  
【ゲスト】亀山貴一氏、船木成記氏(一般社団法人つながりのデザイン)

事業 Introduction 紹介

移住だけではなく、石巻市でチャレンジをしかける起業家を輩出するために、市とコンソーシアムハグクミ(石巻観光協会、ISHINOMAKI2.0、イトナブ、巻組)がタッグを組んで仕掛ける事業ブラッシュアッププログラム。事業の立ち上げやブラッシュアップを支援するメンタリングを実施し、受講生の起業を伴走支援する。移住を検討している方、既に石巻に移住し経営者の右腕として働く方、地域おこし協力隊員向けに、石巻のリソースを生かしながらどのようにキャリアプランを練って行くか、仲間と一緒に考える。受講生は、卒業の際に石巻市長を含む審査員に自身のプロジェクトを発表し地域の人々に周知する。



2017年度 最優秀ビジネスプラン  
シーグラスをつかったプロダクトで海と人をつなぐ「SUNと巻」

吉田菊恵氏

2018年度 最優秀ビジネスプラン  
Mimiのおまんじゅう屋さん

小川奈津美氏

## ビジネスコンテストレポート

2018年3月に行われた石巻版松下村塾の最終報告会では、海で磨かれ東北の浜辺に流れ着いたガラス「シーグラス」を使ったアクセサリーブランド、子どもに絵本の面白さを伝える読み聞かせアプリ開発、畳の縁（へり）を使った雑貨を扱う豊屋cafe、日替わり店長のシェアキッチンという、4つの個性ある事業が発表された。

審査委員の石巻市亀山市長、石巻観光協会齋藤副会長、ETIC宮城代表の熱心な質疑応答や激励も交わされた。先輩起業家のTreeTree Ishinomaki(石巻こけし)の林貴俊さんからは、地元の人たちに応援された経験から、「自ら人に発信していくことが大事。良いことだけではなく、全ての言葉が自分の背中を押してくれた。応援してくれる人は石巻にたくさんいるから、一緒に頑張りましょう」というメッセージも。



### 卒業生の活躍

#### 小川 奈津美さん(2018 年度塾生)

震災ボランティアを機に石巻と深く関わりを持つ。2017年4月に本格的に石巻でチャレンジを開始。2018年に「松下村塾」に入塾。「講師陣をはじめ、合宿で一緒にMBAの学生さんたちなど、一人で生きていたら絶対に出会えないようなすごい人たちと出会えたのは、受講してよかったことのひとつです。講師の一人に、「おまえは誰を幸せにしたいんだ?」と問われて号泣したこともあります」と語る。2019年3月に松下村塾を修了し、「mimiのおまんじゅう屋さん」を開業。その後、アスリートフードマイスターとしての経験も活かし、栄養が豊富な旬の野菜や、石巻の魚、海藻、肉などを使った惣菜屋「sono」をオープン。



#### 横山翼さん(2019 年度塾生)

震災ボランティアを機に2014年に石巻へ移住し、理学療法士の仕事を開始。2019年に石巻版松下村塾に参加。「松下村塾では計画していた事業や信念を見つめ直すことで、他の人に伝わりやすくなり、理解されやすくなりました。理解されると共感が生まれました。共感が生まれることで、協力してくれる人がいたり、サービスを受けてくれる方が増えたり、自分もそうだったんだよねとお話して下さる方ができました。」と語る。2020年2月に一般社団法人HitoRehaを設立。対話カフェやオンラインコミュニティサービスなどを行い、障がいを抱える方のチャレンジが人と地域を繋ぐ社会を創造することを目指す。



#### 早坂真由美さん(2018 年度塾生)

2018年8月より、半年間の「石巻松下村塾」と、同時期の「オモシロ不動産大作戦」スタートアップコースを受講し、石巻市で巻組が運営するシェアハウス日和山Aに住む形で移住。「オモシロ不動産」でサロン開業という具体的な事業計画を詰める一方、「松下村塾」ではもっと人生論的なこと、「なぜこれがやりたいのか」という部分を深掘りすることで、お客様は店ではなく人に付く、大事なのは「人間力」だということを再認識したと語る。2019年3月に卒業し、同月末に市内のインキュベーションオフィスを借りて石巻初のタイ古式マッサージサロンbliss(現店名:Vital)を開業。



# イシノマキ オモシロ 不動産 大作戦

## 事業 Introduction 紹介

石巻で心うごくまに事業を始める「オモシロい」起業家の生活と仕事の拠点を増やすため、「マッチング」「起業支援」「リノベーション」の3点から空き家活用を場づくりのプロフェッショナルが全力で支援する仕組み。不動産市場にのらないオモシロ物件をネタに、地域の大家とオモシロ事業者がともにアイデアを出し合う。これまで、のべ180名が参加し、「3坪・水道・ガスなしの店舗物件」「手作り回転テーブル付きガレージのある家」「絶望的に急な坂の途中にある家」などがマッチング。

### ▶ 2020年度はオンラインで開催

新型コロナウイルス対策により2020年度の「イシノマキオモシロ不動産大作戦」はオンラインで開催。



## 開催データ

**2018年**  
2018年9月9日(水)・11月15日(土)・12月15日(土)開催  
参加者25名 講師：竹内昌義(株式会社エネルギーまちづくり社)／内山彰(株式会社エネルギーまちづくり社)／河野直(合同会社みき設計施工社)／中田理恵(中田製作所)／田中拓人(合同会社みき設計施工社)  
ホームセンターで購入可能な工具や建材を利用して、空き家となった木造住宅を断熱して快適に住むための方法を伝授するワークショップ。業界第一線を走る講師陣からのレクチャーと現地でのワークショップにより、リノベーションの方法やワークショップの企画方法を学ぶことができた。  
2018年8月22日(水)・マッチングコース①  
参加者20名 講師：青木純(株式会社まぐら)／主として石巻市在中または市外在中で空き家を所有する大家と空き家を活用して新しい活動をはじめたい人(石巻への移住・起業を検討する者)が参加し、空き家の活用方法や空き家を使ったビジネスについて議論をおこなった。東京で先進的な空き家活用や場作りを行う青木純氏を講師にもかかせ、レクチャーの後は2つのグループを別れ参加者同士でお互いの空き家の活用方法についてアイデアを出し合った。  
2018年9月8日(土)・スタートアップコース  
参加者9名 講師：花屋雅貴(株式会社エゼロ厚真)／事前に各自の事業計画について内容を提出する開始にできる参加者が集まった。参加者が具体的に事業開始に向けて計画を立て、実行していることが分かった。多くの方が主たる事業を立ち上げようとしていた。事業内容はそれぞれ違っても、自らの思いを形にしようとしている同じ仲間同士今後ともお互いに話ができる関係を構築できるような環境を設けた。講師からの事業紹介の後の質疑応答の時間を設けて、講師からその事業をよりよくするための確かな質問の数々をうけて、参加者自身が答えることで、事業の不足部分を確認し再検討していくことができた。  
2018年10月8日(月)・スタートアップコース②  
参加者4名 講師：寺村元一(株式会社まりつくりエイト)／受講生は具体的に事業開始に向けて計画を立て、実行しており、具体的なビジネスについて議論をおこなった。東京で先進的な空き家活用や場作りを行う寺村元一氏を講師にもかかせ、レクチャーの後は2つのグループを別れ参加者同士でお互いの空き家の活用方法についてアイデアを出し合った。  
2018年11月10日(土)・スタートアップコース③  
参加者7名 講師：花屋雅貴(株式会社エゼロ厚真)／3回のワークショップを重ねた結果、参加している起業家同

**2019年**  
2019年1月12日(土)・スタートアップコース④  
参加者34名 講師：豊田雅子(NPO法人尾道空き家再生プロジェクト)／片岡八重子(株式会社コロコロエ)／最終回となるスタートアップコースは2人の講師による事例紹介となった。空き家再生に取り組み、10年以上の実績を持つNPO法人尾道空き家再生プロジェクト代表豊田雅子からは、その活動の中の代表的な物件についてレクチャーを聞いた。現在の建築基準では、建物の建築が難しい敷地に建つ空き家を多くを再生したい。また、需要文化財に指定される建物も再生についても、大変興味深い活動内容を紹介いただいた。コロコロエ片岡氏からは、震災後の石巻での活動の様子と、地元岡山にて実施している商店街の活性化についての事例を紹介いただいた。ワークショップでは、2人の参加者が実際に抱えていた課題を、グループに分かれて課題解決に向けたアイデアを出し合った。出されたアイデアはどれも実践可能な斬新なものも多く、課題が大きく前進した。  
2019年2月18日(月)・スタートアップコース⑤  
参加者4名 講師：花屋雅貴(株式会社エゼロ厚真)／石巻市産業者が主催するビジネスコンペで受賞した島田氏など、具体的に事業を進めながら相談に至る3名が参加した。事業が進行するからこそ悩みをお互いに共有しあうことができ、みんなスッキリした表情で帰って行った。  
2019年8月20日(火)・マッチングコース①  
参加者27名 講師：東海林論置(株式会社Seevisions)／主として石巻市在中または市外在中で空き家を所有する大家と空き家を活用して新しい活動をはじめたい人(石巻への移住・起業を検討する者)が参加し、空き家の活用方法や空き家を使ったビジネスについて議論をおこなった。秋田で元倉庫の空きテナントの活用や路地地帯を活用したまちづくりを行なっている東海林論置氏を講師にもかえ、レクチャーの後は参加者からの空き家相談に対して、参加者同士で空き家の活用方法についてアイデアを出し合った。  
2019年10月22日(火)・マッチングコース②  
参加者26名 講師：宮本吾一(株式会社Chus)／

**2020年**  
2020年1月27日(月)・スタートアップコース⑥  
参加者1名 講師：花屋雅貴(株式会社エゼロ厚真)／主として石巻市在中で具的でない事業を始める予定がある参加者の事業をワークショップ、建築・不動産の運用を含めたビジネス事業プランニングの専門家である花屋雅貴氏を講師に迎えてワークショップをおこなった。ワークショップの後は参加者からの事業相談に対して、具体的な事業化に向けてのアドバイスをおこなった。  
2020年2月18日(火)・マッチングコース③  
参加者26名 講師：首藤義教(株式会社Happy)／渡辺祥広(神戸市役所)／主として石巻市在中または市外在中で空き家を所有する大家と空き家を活用して新しい活動をはじめたい人(石巻への移住・起業を検討する者)が参加し、空き家の活用方法や空き家を使ったビジネスについて議論をおこなった。株式会社Happyを立ち上げた高橋孝子(外国人子育て中の女性など)が共生する介護付き多世代シェアハウスを展開する首藤義敬氏(仙台市出身で、神戸市役所に勤めながら副業として空き家活用・市職員を中心とした「コアアクション」など幅広い活動を展開する渡辺祥広氏のお二人を講師に迎えた。レクチャーの後は参加者からの空き家相談に対して、参加者同士

**2021年**  
2021年1月19日(金)・オンライン配信  
講師：吉原勝巳(株式会社スペースデザイン)／吉原住宅有限公司／NPO法人福岡ビルストック研究会  
比佐野晴司(信和物産株式会社)  
福岡でビジネスの活用を通して、先進的なまちづくりを進めるスペースデザイナーの吉原勝巳氏と、石巻で100戸以上の賃貸管理に取り組んでいる信和物産の比佐野晴司氏の対談企画。  
2021年3月15日(金)・オンライン配信  
講師：殿塚健吾(omusubi不動産)／若林明宏(有限会社若林商會)  
DIY可能賃貸の管理戸数日本一をほこりクリエイティブ系人材に絶大な支持を得る不動産屋さんであるomusubi不動産の殿塚健吾氏をゲストに迎え、クリエイティブな人材を地域に集める手法について掘り下げる。対談するのは、石巻工房のシヨールムなどが入居するIshinomaki Home Baseオーナーの若林明宏氏。  
オンラインアーカイブ(2020年11月18日収録)  
生き方を豊かにするワークショップデザイン①  
石巻にクリエイターが通る理由  
講師：野村大輔(ada株式会社亀山貴貴(一般社団法人はまのむ)／島田暢のんき)  
クリエイターが現在石巻に足繁く通い様々なライフワークスやリアルな実践をおこなっています。石巻・地方と継続的に繋がりのプロジェクトを組む魅力は「はまのむ」浜のコンテンツ考案」というワークテーマを通して深掘りします。  
オンラインアーカイブ(2021年1月19日収録)  
生き方を豊かにするワークショップデザイン②  
在宅ワークを豊かにする庭づくり  
講師：野村大輔(ada株式会社)／渡邊孝子(合同会社巻組)／大山雄也(緑彦)／渡邊篤史(株式会社センクリエーター)／実際の空き家の庭を題材に、在宅ワークが捗る庭づくりをテーマにトークを行います。

## 活用事例

### 抽出条件

- ①石巻市内の物件
  - ②従前1ヶ月以上使用者がいなかった不動産について、個人大家から売買によって巻組または移住者が権利取得したもの(不動産屋の仲介があったもの含む)▶6件
  - ③従前1ヶ月以上使用者がいなかった不動産について、個人大家との直接契約について賃貸契約が決まったもの(不動産屋の仲介があったもの含む)▶11件
- 計17件 上記のうち、巻組が占有して賃貸経営している物件は9件。

### 空き家活用実績

	2017年	2018年	2019年	2020年
売買件数	1件	1件	2件	2件
賃貸件数	2件	2件	3件	4件

### 利用者インタビュー

## のんき

代表 島田暢さん

巻組物件「日和が丘木の家」のリノベーションにおいて蛤浜産の木材でコラボレーション。巻組が運営に関わる空き家活用のイベント「石巻オモシロ不動産大作戦」に参加。オモシロ不動産の2.5回で、今リノベーションしている家とマッチング。0円物件の話が出て、ちょうどその時、島田さんが住んでいた借家が来月解体する連絡があったタイミングだった。譲渡に当たって、持ち主の息子さんとやり取りをし、島田さんがやっていた、次世代に繋ぐ活動などを理解してもらい、譲渡する家を次世代につなげる良い家にしてもらえるだろうと家を譲って頂くことになった。現在、起業家向けのシェアハウスにリノベーション中。起業家と一緒に、次のビジョンを話し合ったり、具体的なことが決まってきたら一緒に仕事ができるシェアハウスで、面白い街づくりの会議をいつでもできたらいいなと考えているとのこと。



## みち草工房

菅原賀子さん 阿部史枝さん

巻組シェアハウス「ハグロ BASE」を利用。ハグロ BASEは、名前にハグロとあるように、石巻市内の羽黒山という小高い土地にある。菅原さんは、駅やまちなかに近いところにあるにもかかわらず、山の奥深くにいるみたいで、別世界にいるような気分になれるのだそう。物件に対して制約がなく、工夫を楽しめることや、違約金がないなど借り側が入退きしやすい仕組みが気に入っているそうです。菅原さんは「ふつうの賃貸物件は、退去するときに原状回復をする必要があるけど、巻組物件は戻す必要がなくて、むしろ変えていけるように内装も最低限にしてあって。だから気にせずガンガン釘を打ったり、棚をつけたり、住みやすいように形を変えていけるところがすごくいいです」。そして阿部「建物や場所が住む人と一緒に育っていく、そんな気がしています。どういう風に使うか考えるのが楽しいです」と話した。



### 空き家をお試し移住の拠点へ

ハグロミでは、古くからある民家を、石巻らしい創造的な視点や、人と人がつながる交流の場という視点も取り入れて改装しています。他とはちょっと違ったおためし移住できる拠点で、石巻らしい移住体験をしてみませんか？

### Shared House Oli (シェアハウスオリ)

JR石巻駅から徒歩6分の所にある「Shared House Oli」。昔ながらの平屋が並ぶ一角に、母屋と寝室棟が佇む風景。ひとたび中に入れば、オシャレにリフォームされた居心地の良い空間が広がっています。「石巻暮らし」を体験したい、「石巻に短期滞在したい」そんな方にオススメのシェアハウスです。

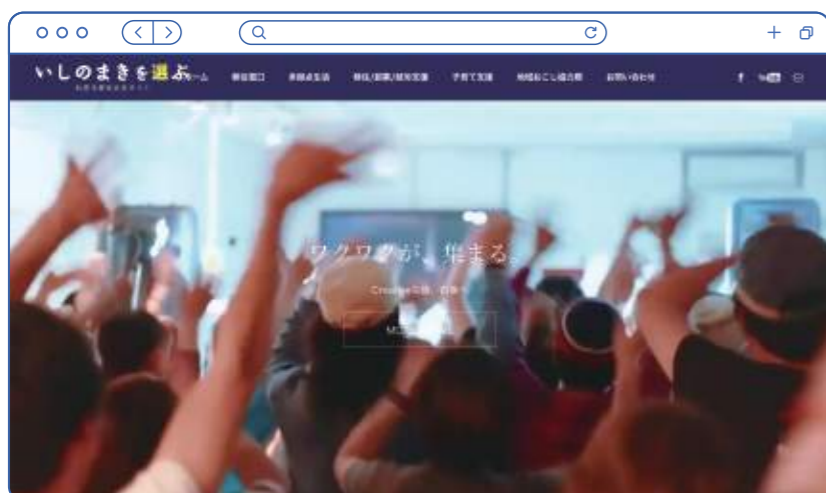
所在地：宮城県石巻市千石町  
 建築年：1945年  
 定員：民泊5名

### GEEK FACTORY (ギークファクトリー)

築300年の茅葺き屋根の古民家を移住者の拠点に生まれ変わった「GEEK FACTORY」。市街地から離れた場所ながら、IT開発イベントや文化交流イベントなども行われた事のある創造的な拠点でもあります。「田舎で創造的に仕事をしたい」、「石巻での活動の拠点にしたい」、そんな方にオススメの物件です。

所在地：宮城県石巻市北上町  
 建築年：不明(築300年以上)  
 間取：3KC+土間

## 情報発信・掲載事例



### 石巻を選ぶ

<https://ishinomaki-iju.com/>

石巻の暮らしガイドとなるウェブサイト。石巻でチャレンジしたい方や移住を検討している方にむけ、石巻のイベント情報や、住まい、働き方など、気になる情報を随時発信。ハグクミの最新情報も発信する石巻の移住ポータルサイト。



### watacoco

watacoco とは、移住について考える石巻のフリーペーパー。Vol.1では、移住者をインタビューし、石巻の魅力を掲載。Vol.2では、新しい暮らし方、働き方のヒントを探す旅「なぜベン体験ツアー」の特集記事などを掲載、石巻の多彩なコミュニティの魅力を内外に発信。



### PR イベントへの参加

地方創生や移住関連のイベントへの参加。復興の担い手が日替わりで登場する石巻発の PR イベント「復興バー銀座店」へ出展し、石巻の魅力を PR。

### 東京脱出旅行社

<http://goodbytokyo.com/>

東京のみならず、都会から石巻への脱出を手助けする「仕事体験旅行」を提案。まちづくり、IT、一次産業から六次産業まで、仕事をしながら旅行ができるプログラム。



### うみねこキャラバン

まちのコンシェルジュが企画するアテンドツアー「農業」「漁業」「6次化」「まちづくり」「先輩移住者との交流」など、移住を検討する方々の希望に合わせて随時ツアーを開催。



### LV リサーチ

地域資源を活かし、新たな価値を地域に創造する石巻のローカルベンチャーをヒアリング。起業や新規事業に対して石巻の地域特性がどのように影響してきたかをリサーチし、ローカルベンチャーに焦点を当てた特集記事を加えたフリーペーパー「ローカルベンチャー白書」を発行。



### ライフピン

石巻のさまざまなデータを地図からみられるようにしたデータベース。



### いしのまねきねこ

石巻の観光 BOT。キーワードを入力するグルメや宿泊情報まで「いしのまねきねこ」がデータベースをもとに案内してくれる。

### NEXT HERO ISHINOMAKI

<http://nexthero.jp/>

石巻でチャレンジする人々を「ヒーロー」として紹介し、そのインタビューを集めたウェブサイト。ローカルベンチャーたちが活躍する街石巻で、ヒーローたちの活動や日々のライフスタイル、リアルな想いを伝える。



Project No.03

## ローカルベンチャー協議会

地域の新たな経済を生み出すローカルベンチャーの輩出・育成を目指し、全国10自治体が参画されている「ローカルベンチャー協議会」。東日本大震災後に多くの新規事業者が生まれた石巻市は、同協議会に参画し、広域連携による事例共有や起業人材のマッチングで一定の成果を挙げてきた。コンソーシアムハグクミはその事務局を担当した。

# 01

## ローカルベンチャーサミット



地方発ベンチャーの輩出・育成を目指す「ローカルベンチャー協議会」の10幹事自治体をはじめ、メーカー、運輸・物流、ゼネコン等も交えたプレイヤー間連携の最新事例を共有するとともに、新たに協働を希望するプレイヤーからの提案など、地域をフィールドにした新しい連携・取り組みに向けて、ともに作戦を考える場を分科会やピッチ&プレスト会議、相談会といった多様な形式で開催。ハグクミは、テーマ別分科会のコーディネーターや石巻市のローカルベンチャーと企業のマッチングをおこなった。

Data

2018年1月25日開催(会場:日本財団ビル/東京)  
2018年11月3日開催(会場:TRAVEL HUB MIX/東京)  
2019年11月8日開催(会場:ステーションコンファレンス万世橋/東京)  
2020年10月27日-10月31日開催(オンライン配信による5日間開催)

# 02

## 地域仕掛け人市



「日本全国!地域仕掛け人市」は、地域で新しいことを仕掛けてみたい人と、地域で新たな事業・チャレンジを仕掛けている人=『仕掛け人』を繋ぐイベント。全国から厳選された、地域で新しい事業・チャレンジに取り組んでいる仕掛け人と直接話すことが出来る貴重な機会。石巻からだけでなく、日本全国から地域の未来を切り拓くチャレンジを実践している、多くの『仕掛け人』が集まった。ハグクミでは石巻を紹介するブースの制作、石巻のローカルベンチャーとともに参加。自分に合う地域や仕事・チャレンジの機会を探している都市部在住の方と、地域で新たな事業・チャレンジを仕掛けている人=『仕掛け人』をマッチングした。

Data

2018年1月25日開催(会場:日本財団ビル/東京)  
2018年11月3日開催(会場:TRAVEL HUB MIX/東京)  
2019年11月8日開催(会場:ステーションコンファレンス万世橋/東京)  
2020年10月27日-10月31日開催(オンライン配信による5日間開催)



# 03

## ローカルベンチャー推進協議会 日本縦断リレーフォーラム「ローカルシフト」 東北から働き方を変える



地域の資源を新たな価値に変えるローカルベンチャーの推進に挑む3都市(釜石・気仙沼・石巻)が提案する「新しい働き方」とは何かを、ゲストによるスピーチや、各地の起業家・支援団体・行政の取組紹介、クロストーク等を通じて探った。東北圏のローカルベンチャーや起業、パラレルワークに興味のある方が集まり、キーノートトークにジャーナリスト津田大介氏、宮崎県日南市からはローカルベンチャープロデューサー土屋有氏も登壇。3都市から行政、実践者、支援者など様々な立場で活躍する方々が駆けつけ、各ブースにはご当地メニューも登場し、東北圏のローカルベンチャーや起業、パラレルワークに興味のある人たちのつながりの場をつくった。

Data

2017年11月19日開催  
会場：INTILAQ 東北イノベーションセンター/仙台  
参加者：76名  
主催：ローカルベンチャー推進協議会  
釜石・気仙沼・石巻地域事務局(コンソーシアムハグクミ)

ゲスト

津田大介(ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)  
土屋有(宮崎大学講師/日南市ローカルベンチャー事務局プロデューサー)

3自治体登壇者

**釜石市**  
戸塚絵梨子(株式会社バソナ東北創生)  
深澤結美(釜石ローカルベンチャー一期生/地域おこし協力隊)  
石井重成(釜石市オープンシティ推進室 室長)

**気仙沼市**  
鈴木歩(ベンシー)  
成宮崇史(気仙沼まち大学運営協議会)  
江川沙織(気仙沼まち大学運営協議会)

**石巻市**  
長谷川 琢也(ヤフー株式会社/フィッシャーマン・ジャパン)  
松村豪太(ISHINOMAKI2.0)

# 04

## ローカルベンチャー推進協議会 日本縦断リレーフォーラム「ローカルシフト Vol.2」 東北から始める 「わたしたちのローカルシフト」



2017年釜石・気仙沼・石巻市で開催した「ローカルシフト」の第2弾。釜石・石巻市の共同開催。開催場所は仙台駅東口のEKITUZI。ゲストに月刊「ソトコト」編集長の指出一正氏を迎え、ゲストによるトークのあと参加者同士のセッションをおこない、白熱した議論をかわした。仙台市や山形市など東北圏域から集まった参加者が両市の取り組みに深く興味を持つ機会を提供した。石巻市、釜石市の合同イベントを仙台にて行うことで、これまでアプローチの出来ていなかった仙台圏の若者やUターン層に向けてローカルベンチャーのプロモーションを行い認知度を高め、具体的な関わりしろを伝えることで関係人口や移住のきっかけにつなげた。

Data

2018年10月27日開催  
会場：仙台EKITUZI  
参加者：30名  
主催：ローカルベンチャー推進協議会 釜石・気仙沼・石巻地域事務局(コンソーシアムハグクミ)

ゲスト

指出一正(月刊「ソトコト」編集長)  
石井重成(釜石市役所オープンシティ推進室室長)  
東谷いずみ(釜石ローカルベンチャーコミュニティ二期生)  
長谷川琢也(ヤフー株式会社/フィッシャーマン・ジャパン事務局長)  
松村豪太(ISHINOMAKI2.0代表理事/Reborn-Art Festival 実行委員会事務局)

活動結果

## 地方創生に取り組む企業とローカルベンチャーをマッチング サフランプロジェクトがスタート!

東京に本社を置き、全国に展開している総合商社株式会社千代田組と、東京で開催された地方創生イベントでコンソーシアムハグクミとマッチングしたことをきっかけに、石巻市のローカルベンチャー事業者と連携するようになった。大分県竹田市、広島県豊栄町、宮城県石巻市の3自治体と連携し、農業分野で新規事業開発を実施。竹田市でサフラン栽培を学びながら、株式会社サタケと共同で設備開発、そのノウハウを石巻市に移転し、農業を営む株式会社田伝むしと連携し、サフランの栽培をおこなっている。さらに石巻市の他の農業に取り組むローカルベンチャーと連携し、情報通信技術 (ICT) の農業への導入を推進している。



## ローカルベンチャーラボに石巻のローカルベンチャーが参加。 日本各地のローカルベンチャーとネットワークを形成

ローカルベンチャー協議会の加盟自治体で設立し、NPO法人ETICが運営する「ローカルベンチャーラボ」は、6ヶ月をかけて、自分が取り組みたいテーマを軸に地域資源を活用しながらビジネスを構想する場。経験豊富な起業家・専門家メンターとともに、事業を実践するマインドやスキルを身につけ、地域や企業との連携ネットワークやコミュニティづくりなどをおこなっている。石巻からは4年間で延べ5名のローカルベンチャーが参加し、ビジネスプランのブラッシュアップや事業の実践を経験し、その後各地のローカルベンチャーとネットワークをつくり、ローカルビジネスの知見を得ている。



## 数字でみる 石巻のローカルベンチャー



海や山、農業に適した広大な平地、そして豊かな自然を有する石巻では様々なローカルベンチャーが活躍しています。ローカルベンチャーとは、地域の資源を活かし、これまでなかった視点で地域に新たな経済を生み出し、ビジネスとして成長させていく存在。自社の利益の追求だけでなく、地域全体の価値の向上につなげ、地域の暮らしを豊かにしていく存在です。東日本大震災のあと、石巻ではボランティアや復興事業をきっかけとして多くの移住者が生まれ、復興の過程とともに新規事業を創業したローカルベンチャーも少なくありません。この章では石巻のローカルベンチャーを、移住アンケートやローカルベンチャーに対するヒアリングを通じて数字で理解していきます。

## 石巻市移住アンケート

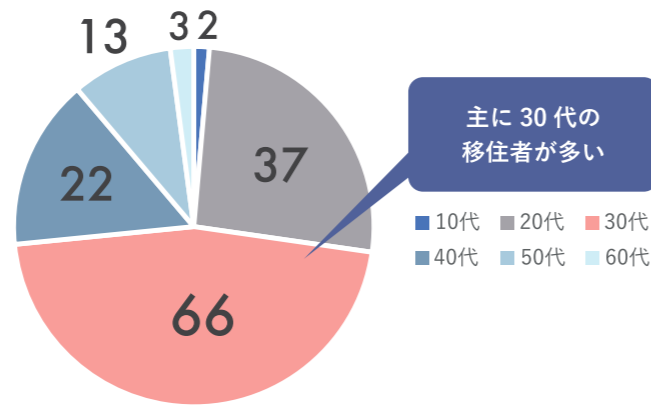
石巻市移住窓口「いしのまきまちのコンシェルジュ」の相談者および東日本大震災後に石巻に移住した方を対象にアンケート調査をしました。

調査期間	2020年9月11日～9月25日
アンケート回答者数	143人送付 うち回答数:317人(回答率 45.11%) ▶内訳 移住コンシェルジュ相談者:105人(149人のうち連絡先不明や非連絡希望者を除く) 東日本大震災後に石巻に移住した方:212人
調査方法	郵送・メール・facebookメッセージ(メールとfacebookメッセージについてはgoogleフォームを利用)

### 石巻市の移住者の内訳

年代	人数	割合(%)
10代	2	1.40
20代	37	25.87
30代	66	46.15
40代	22	15.38
50代	13	9.09
60代	3	2.10
70代	0	0.00
80代以上	0	0.00

n=143 平均:35.42歳

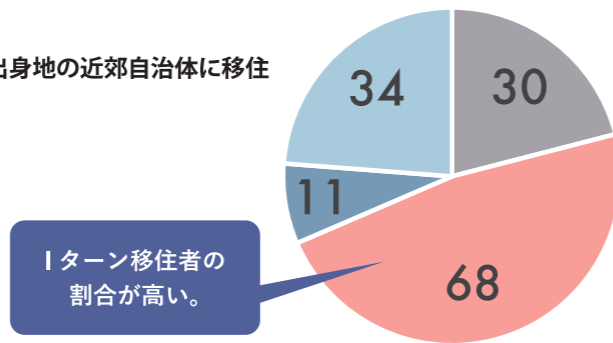


主に30代の移住者が多い

### U・I・Jターン?

- ▶Uターン…出身地以外の地域に一度移り住んだ後、出身地に戻り住んだ
- ▶Iターン…出身地以外から現在地に移り住んだ
- ▶Jターン…出身地以外の地域に一度移り住んだ後、出身地の近郊自治体に移住

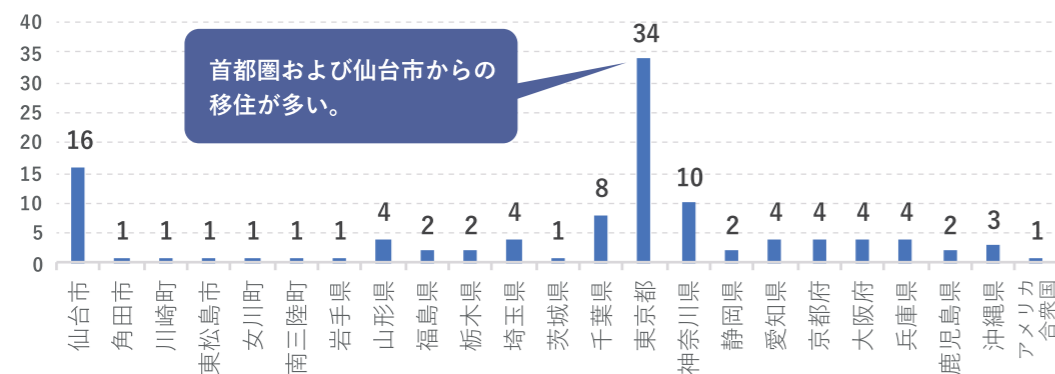
U・I・J	人数	割合(%)
Uターン	30	20.98
Iターン	68	47.55
Jターン	11	7.69
U・I・Jターンでは無い	34	23.78



Iターン移住者の割合が高い。

■Uターン ■Iターン ■Jターン  
■U・I・Jターンでは無い

### 移住の経験をされた方について移住前の住まい



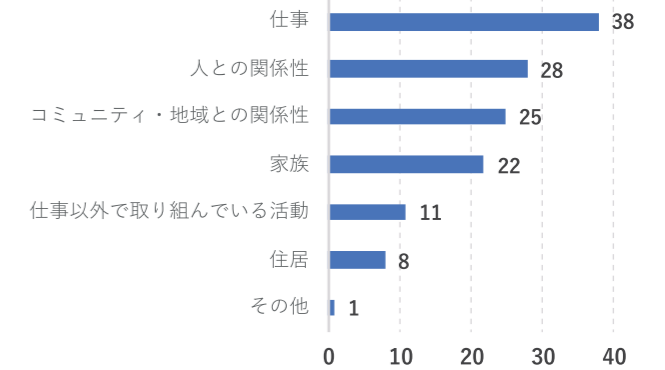
首都圏および仙台市からの移住が多い。

### 石巻に移住し、現在まで5年以上住まわれている方。その主だった理由

□仕事 □家族 □住居 □人との関係性 □仕事以外で取り組んでいる活動 □コミュニティ・地域との関係性 □その他( ) (3つまで)

住み続ける理由	人数	割合(%)
仕事	38	28.57
人との関係性	28	21.05
コミュニティ・地域との関係性	25	18.80
家族	22	16.54
仕事以外で取り組んでいる活動	11	8.27
住居	8	6.02
その他	1	0.75

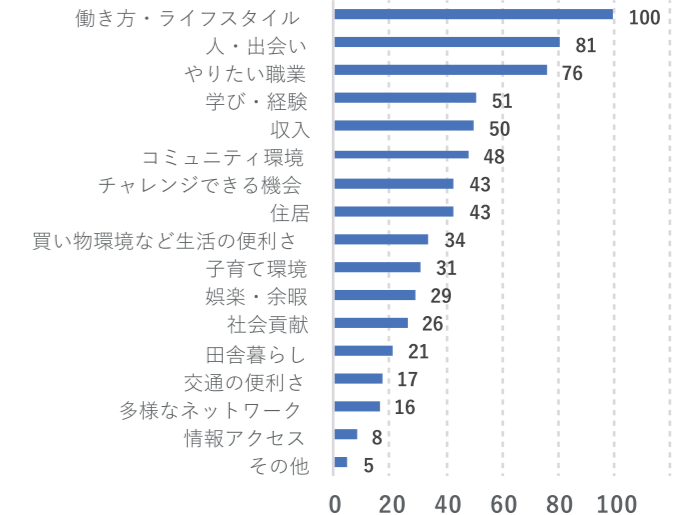
n=55



### 移住をする際に重視したい要素

- 収入 □住居 □やりたい職業 □働き方・ライフスタイル □子育て環境 □社会貢献 □コミュニティ環境 □チャレンジできる機会
- 学び・経験 □娯楽・余暇 □人・出会い □買い物環境など生活の便利さ □交通の便利さ □田舎暮らし □多様なネットワーク
- 情報アクセス □その他( ) (5つまで)

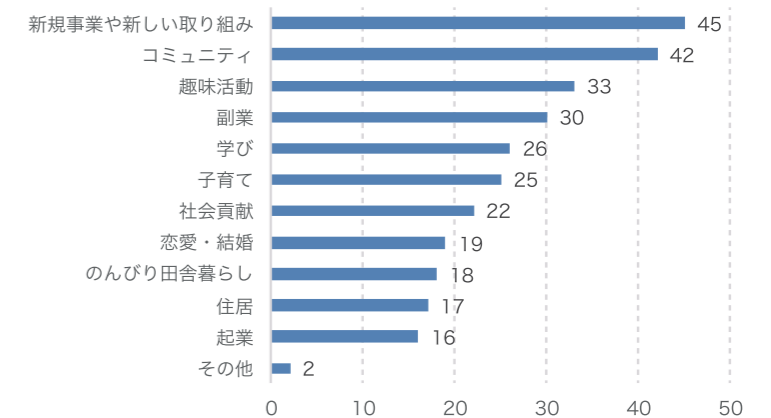
移住重視要素	人数	割合(%)
働き方・ライフスタイル	100	14.73
人・出会い	81	11.93
やりたい職業	76	11.19
学び・経験	51	7.51
収入	50	7.36
コミュニティ環境	48	7.07
住居	43	6.33
チャレンジできる機会	43	6.33
買い物環境など生活の便利さ	34	5.01
子育て環境	31	4.57
娯楽・余暇	29	4.27
社会貢献	26	3.83
田舎暮らし	21	3.09
交通の便利さ	17	2.50
多様なネットワーク	16	2.36
情報アクセス	8	1.18
その他	5	0.74



### 石巻市に移住・定住された方。今後興味がある事

- 恋愛・結婚 □副業 □起業 □住居 □子育て □新規事業や新しい取り組み
- 趣味活動 □学び □コミュニティ □社会貢献 □のんびり田舎暮らし □その他( ) (3つまで)

移住重視要素	人数	割合(%)
恋愛・結婚	19	6.44
副業	30	10.17
起業	16	5.42
住居	17	5.76
子育て	25	8.47
新規事業や新しい取り組み	45	15.25
趣味活動	33	11.19
学び	26	8.81
コミュニティ	42	14.24
社会貢献	22	7.46
のんびり田舎暮らし	18	6.10
住居	17	5.76
起業	16	5.42
その他	2	0.68



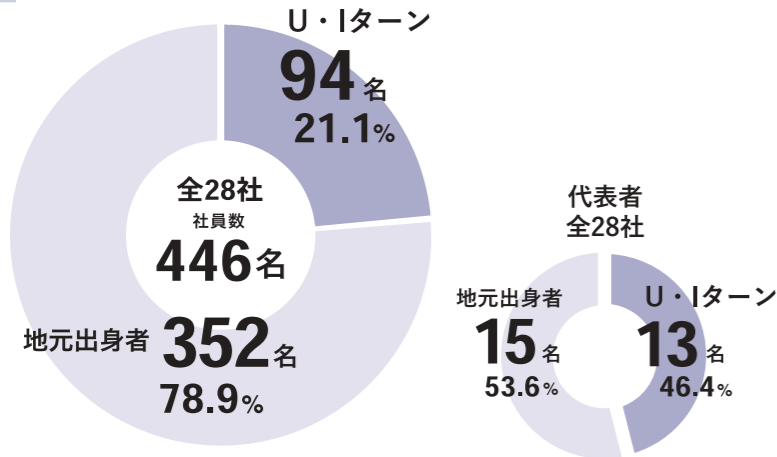


## ローカルベンチャーリサーチ

石巻市内ローカルベンチャー事業者28社にヒアリングし、その特徴や、創業の背景、その傾向をリサーチしました。

【ヒアリング対象事業者】フィッシャーマン・ジャパン / 今野梱包株式会社 / 公益社団法人 MORIUMIUS / 株式会社草新舎 / 一般社団法人イシノマキ・ファーム / NPO 法人かぎっこ PROJECT / 一般社団法人おしかリンク / Tree Tree Ishinomaki / 株式会社石巻工房 / 一般社団法人日本カーシェアリング協会 / 一般社団法人石巻・川の上プロジェクト / クマガイサイクル / 一般社団法人はまのね / 一般社団法人りぶらす / 愛さんさんビレッジ株式会社 / 石巻うまいもの株式会社 / 合同会社デザインナギ / 株式会社元気いしのみき / 株式会社海遊 / 一般社団法人 ISHINOMAKI2.0 / 合同会社巻組 / イトナブ / 一般社団法人ウィアーワン北上 / のんき / 猫ハソーンイング / 島津麴店 / 有限会社若林商会 / もものうらビレッジ

### ? U・Iターンの割合は?



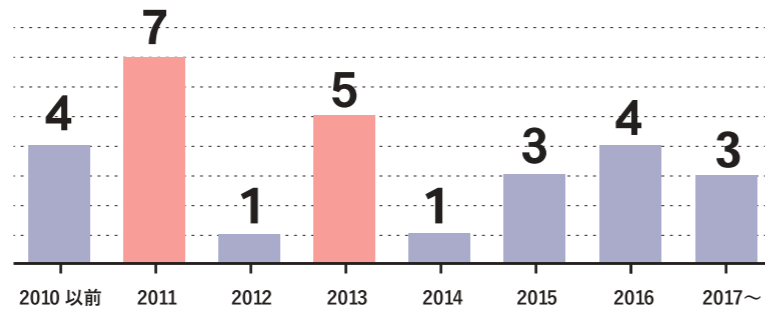
#### U・Iターンも一丸と なって取り組む

調査対象事業者全体の社員数は446名、そのなかで94名(21.1%)がUターンもしくはIターンです。つまり石巻のローカルベンチャーは約4人に1人がU・Iターンの人材です。代表者がU・Iターンである割合は更に高く28社中13社(46.4%)が該当します。地元出身者とともにU・Iターンが活躍しているのが石巻のローカルベンチャーのひとつの特徴です。

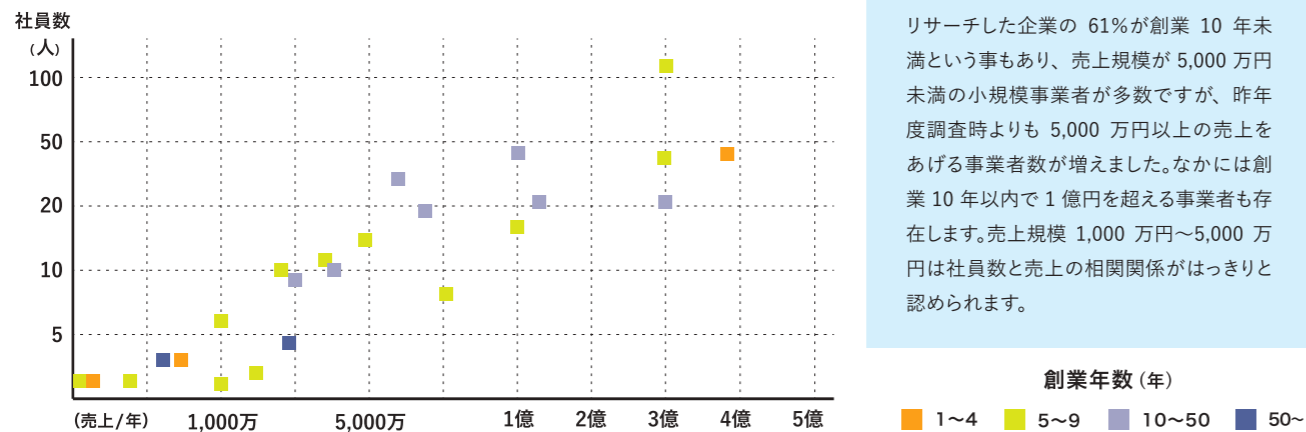
### ? いつ創業したの?

#### 2011年、その2年後が創業のピーク

創業年の推移をみると、多くのローカルベンチャーが東日本大震災が発生した2011年に以降に生まれていることがわかります。震災を契機に石巻のローカルベンチャーが増加したといえますが、そのピークは被災後の3年後という特徴的な傾向がみられました。



### ? どれくらいの売上規模と雇用があるの?



#### 売上規模5,000万円未満の事業者が多い

リサーチした企業の61%が創業10年未満という事もあり、売上規模が5,000万円未満の小規模事業者が多数ですが、昨年度調査時よりも5,000万円以上の売上をあげる事業者数が増えました。なかには創業10年以内で1億円を超える事業者も存在します。売上規模1,000万円~5,000万円は社員数と売上の相関関係ははっきりと認められます。

### ? 石巻は起業しやすい街?

#### 可能性を秘めた街

毎年度、事業者には、石巻は起業しやすい街であるかどうかを質問しています。7割以上の事業者が起業しやすい街と回答した3年前と比べると、肯定的な意見は減少していますが、継続して回答を続ける事業者には、現実的な壁に直面することで、起業に対して良い面も悪い面も見え、つまりどちらとも言えるという立場をとる傾向があります。代表者がU・Iターンの事業者ほど肯定的な意見が顕著でした。

しやすい

17社  
60.7%

#### 起業しやすい理由

- 小さくても起業しているモデルになる方がいる。
- 仲間がみえやすい。
- おせっかいなコミュニティがある。
- まわりに相談できる機会や聞かれる機会が多い。
- 支援団体がある。
- 水産業にとっては連携しやすい。
- 他の地方都市に比較して応援してくれる人が多い。
- 誰かが足を引っ張ることもない。
- ニッチであればあるほどサポーターが多い。

どちらとも言える

6社  
21.4%

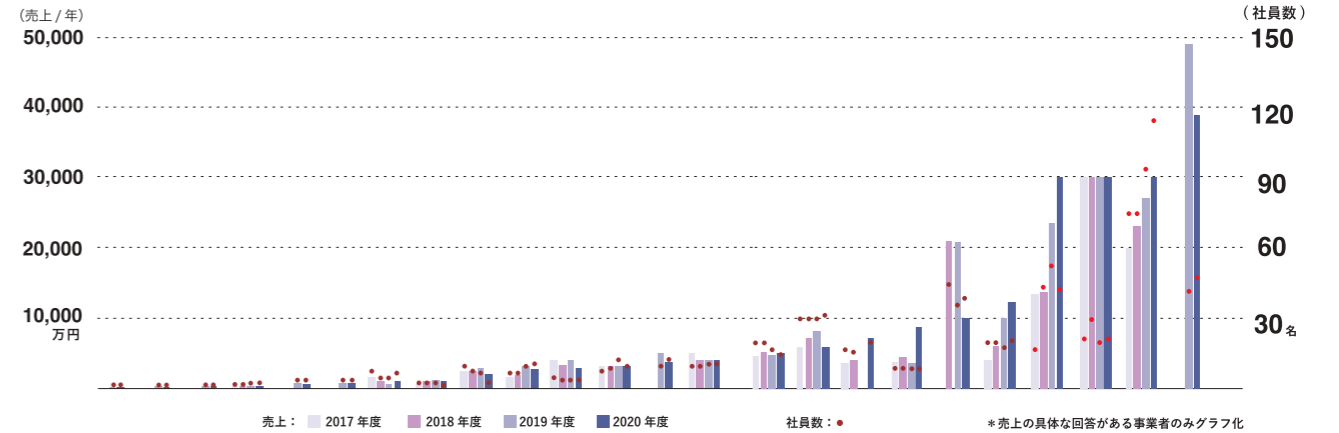
#### 起業しにくい理由

- 良いものを素直に称賛しない。
- 関心をわざと示さない風土がある。
- 景気がよくない。

しにくい

5社  
17.9%

### ? どのくらいの成長があったか?



## 事業の成果

### コンソーシアムハグクミ事業 KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)

KPI		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
KPI①ローカルベンチャーによる売上規模(千円)	計画	10,000	40,000	80,000	140,000	220,000
	実績	0	27,200	162,900	223,920	149,100
KPI②新規事業創出数(新規創業数+新規事業数)	計画	1	1	2	3	4
	実績	0	7	18	33	9
KPI③起業家型人材の地域へのマッチング数	計画	5	5	5	5	5
	実績	0	6	8	22	16

※【KPIの定義】

①ローカルベンチャーによる売り上げ規模: 原則、過去1年分のローカルベンチャーの売上額(NPO等の寄付収入含む)の増加分。もしくは各社の年度による前年度からの売上増加額の見込み。②新規事業創出数(新規創業数+新規事業数): 新規創業数は、開業届や法人設立届に限らず、何らかのサービスを開始し、売上の計上がなされた数。新規事業数は、戦略的意図を持って、新たなプロジェクトを実施した数。③起業家型人材の地域へのマッチング数: 地域のローカルベンチャーの発展に寄与するために、当該地域の事業者等への就職や業務委託契約、または期間限定での参画など、新たに活動を開始することになった者の数



ISHINOMAKI Growth record  
 コンソーシアム ハグクミ 2016年度-2020年度 事業報告書

2021年3月発行

編集:勝 邦義 (一般社団法人ISHINOMAKI2.0)  
 デザイン:木村亮太(ニヤデザイン)

発行:コンソーシアム ハグクミ  
 令和2年石巻市地域活躍支援推進事業

連絡先:一般社団法人ISHINOMAKI2.0  
 〒986-0822 宮城県石巻市中央二丁目10-2  
 電話 0225-90-4982 fax.0225-90-4983  
<http://ishinomaki-iju.com/>  
[navi@ishinomaki2.com](mailto:navi@ishinomaki2.com)